



診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

勤労感謝の日の前日の夕方、早めに仕事を片付けて病院を後にし、白浜町内の旅館に急いだ。5人の仲間が1年ぶりに集うことになっていた。内科のK先生と泌尿器科のE先輩は、既に温泉から上がり浴衣姿になっていた。二人にあいさつをして、精神科のN先生を白浜駅まで迎えに行った。先生は大病の後であったがいつもと変わらない笑顔であった。

旅館に戻ると、内科のI先生も到着していた。秋風が気持ち良い露天風呂の中で、N先生は「今年は何拾いした年だった」と語った。昨年、進行がんが見つかり、

<45> SPAの会

手術、抗がん剤、ラジオ波焼灼治療の後、やっとがんが根治した状態となった。退院後は食欲旺盛とのこと、私たちはこの時を待って

ていた。N先生に、とびきりおいしいものを食べてもらおうと白浜での会を企画したのであった。料理は山海の幸を使った豪華なもので、特に天然クエやクツエビが珍しく、話が弾んだ。大阪市天王寺区に桃山市民病院という病院があった。感染症病院として明治29年に創設された桃山病院

が前身で、市民病院の統廃合により、平成5年都島区の大阪市立総合医療センターに移行し、発展的解消をした。本館は創設時代の木造建築で、木の廊下は歩くときしむ音がした。5人はこの病院の勤務医であった。当時、のちに大阪市長となられた関先生が副院長をされていた。医局旅行の宴会で、天の川が見たいと

酒が進み、志高く、「相対と絶対論」「宇宙と神」に話が及ぶこともあれば、子育てや子どもの教育に悩む会話もあった。配偶者との不協和音が語られることもあった。病気に悩み、落ち込んで一時連絡が取れなくなったメンバーもいた。それでも毎回5人がそろった。会つとほっとした。気がつけば20年以上続いている。今回は、白浜温泉で名実ともに「SPAの会」となり、深夜まで話は尽きなかった。翌日、皆で私が今お世話になっている病院を見学に来て、「職員が親切で、設備と環境が良い病院だね」と喜んでくれた。ずっと大学にいたと思われていた私が突然和歌山に帰ると言って心配をかけていたのかもしれない。多くの人に支えられている気持ちで毎日仕事ができる。